

# 未来への大分岐 マルクスと気候危機

斎藤幸平

大阪市立大学

2020年3月28日（土）

# 冷戦体制崩壊 30年

- 1989年11月9日ベルリンの壁崩壊
- 12月3日 米ソ首脳はマルタ会談
- ソ連の「社会主義」が破れ、資本主義が勝利した年
- 共産党を中心とする左派政党の衰退
- 新自由主義的グローバル資本主義の繁栄（F.フクヤマ「歴史の終わり」）
- マルクス主義思想・経済学の衰退

# 大分岐の時代

- 「勝利」から30年たってどのようになったか
- 貧困、格差、労働問題、金融危機、長期停滞、気候危機、右派ポピュリズムの台頭（民主主義の危機）、シンギュラリティ（人間の危機）……。
- そしてパンデミック
- これからの10年でどのような対策を取るかによって、人類の未来が大きく変わる大分岐
- より分断や格差を生む社会となるか、それとも、より平等や自由に重きを置く社会となるか？

# アメリカの社会主義

- 「歴史の終わり」から30年たって、資本主義の地位は安泰とはいえない。  
い難い。
- FT紙9月18日付「キャピタリズム。リセットの時」
- ソ連崩壊以降に生まれた世代の抵抗感は薄れている（「毎日新聞」11月30日）  
→多くのアメリカ人の若者たちは「社会主義」の方がいいと考えるようになってきている。
- サンダースがみずからを「社会主義者」と呼んで、熱狂的な支持を得ている事実からもうかがえる。AOCの支持。
- 多額のローンを背負って大学に行き、その後の雇用も安定せず、医療費なども膨大な格差社会に住むことに、若者たちが疑問を抱くようになってきているのは間違いない。



Joseph R.  
Biden Jr.



Bernie Sanders

## Which of these age groups are you in?

18-24

7% of voters

16

83

25-29

8%

15

81

30-39

14%

34

62

40-49

16%

45

51

50-64

32%

66

27

65 or over

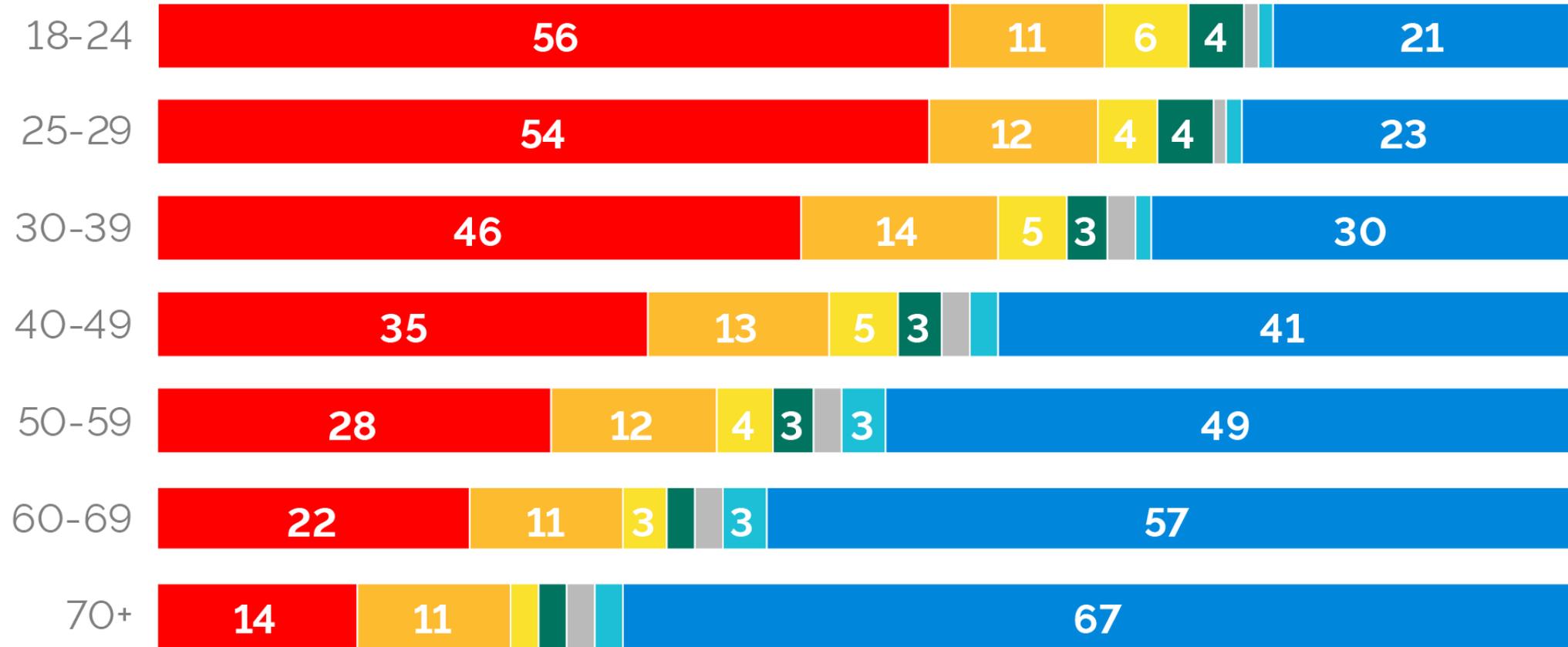
23%

73

23

% of 41,995 adults who voted at the 2019 general election

Labour Lib Dem SNP Green Other Brexit Party Conservative



# 回帰する社会主義の亡霊

- トランプ「私たちの国が直面している最も深刻な課題の一つは社会主義の亡霊である。」
- アメリカやイギリスの若者たちはソ連や東独の記憶がない
- とはいえ、ソ連や東独のような「社会主義」に住みたいと思っ  
ているわけがないはず
- とすれば、ここで言われている「社会主義」とはまったくの別物  
→この21世紀の社会主義とは何なのか？
- 単なる福祉国家？
- そもそも21世紀の新しい「社会主義」に照らして、20世紀の社  
会主義はほんとうに「社会主義」だったと言えるだろうか？

# いま、マルクスがおもしろい

「いま、マルクスがおもしろい」をテーマに、インターネット生放送「とことん共産党」が23日放送されました。ゲストは石川康宏さん（神戸女学院大 学教授）、進行役、司会 は、小池晃さん（党書記局長）、朝岡晶子さんが務めました。



パネルで、米国の若い世代への世論調査で、選べるなら住みたい国で「資本主義国42%」に対し「社会主義国44%」と紹介されました。石川氏は米国で巨大な貧困と格差拡大が進行しており、これが民主的社會主義者と名乗るサンダース上院議員に若者や女性の支持が高い要因になっている、同氏は北欧型の社会をめざしており米国の「社会主義」は概念が広いとのべました。

3氏の議論は、マルクスの理論と「ジェン

## 石川氏 資本主義でのたたかい重要 小池氏 野党の政策合意の前進大事

「ダー平等」「気候変動」「未来社会」「未来社会への道のり」などに及びました。

石川氏は気候変動について、マルクスが『資本論』ですでに、



出演する(左から)小池晃、朝岡の各氏 23日

労働による自然との物質代謝によって人間は生きている、ところが資本主義がこれを破壊するといっていることを受け、利潤第一主義が行き過ぎると環境が破壊される、これを制御する「国法」や国際的協定が必要だと指摘しました。

石川氏は「資本主義社会でのたたかいは重要で、未来社会と地続きだ」とのべ、段階的な社会の前進を強調、小池氏は「野党連合政権の政策合意が前進することも大事です」とのべました。

この放送録画は党ホームページで見ることができます。

# 21世紀の社会主義

- ソ連型の失敗が皮肉にもマルクス自身の社会主義の再評価に  
→ 気候変動を前にした「エコ社会主義」として復権  
= 自由、平等、連帯、そして**持続可能性**
- Naomi Klein, *On Fire*

「ソ連型」の失敗が皮肉にもマルクス自身の社会主義の再評価に  
→ 気候変動を前にした「エコ社会主義」として復権  
= 自由、平等、連帯、そして**持続可能性**

「ソ連型」の失敗が皮肉にもマルクス自身の社会主義の再評価に  
→ 気候変動を前にした「エコ社会主義」として復権  
= 自由、平等、連帯、そして**持続可能性**

「ソ連型」の失敗が皮肉にもマルクス自身の社会主義の再評価に  
→ 気候変動を前にした「エコ社会主義」として復権  
= 自由、平等、連帯、そして**持続可能性**

# マルクスのエコロジーの再発見

- 日本では都留重人、宮本憲一、椎名重明、吉田文和  
→早い段階でのマルクスのエコロジーへの着目  
=公害問題が中心+ソ連崩壊後下火に
- 英米圏ではむしろ2000年以降、マルクーゼ、コモナー、メサーロシュらの「物質代謝論」に依拠する形で、マルクスのエコロジーが展開されるように
- ジョン・ベラミー・フォスター、ポール・バーケットによる「物質代謝の亀裂」概念

# 物質代謝の亀裂

- マルクスの「物質代謝」論
- 超歴史的で、生理学的な事実としての人間と自然の物質代謝
- 労働 = 人間と自然の物質代謝の意識的な媒介
- 労働の社会的編成によって、物資代謝は大きく変化を受ける
- 価値による媒介
- 貨幣、資本として価値の自立化・主体化
- 資本蓄積に有利な形での素材的世界の変容・再編成
- 素材的世界の攪乱

# エコロジカルな経済学批判

- 人間と自然の物質代謝が資本の論理によっていかに変容されるか
- 「労働」による価値形成と「自然」の無償性  
→資本の自然利用への異常なまでの関心
- 社会的物質代謝と自然的物質代謝のあいだの「修復不可能な亀裂」
- 膨大な自然科学ノート、農芸化学、地質学、植物学、鉱物学など
- 森林伐採、石炭問題、品種「改良」  
→具体的な物質代謝の変容とその矛盾

# 気候変動と大分岐

- 気候危機の深刻化=パリ協定は完全に不十分
- 2100年までの1.5°C以内におさめるためには、2030年に二酸化炭素排出量を半減させ、2050年までに実質ゼロにしなければならない
- グレタ・トゥーンベリ「無限の経済成長というおとぎ話」  
「現在のシステムの中に解決策が見つからないなら、システムそのものを変えるべきなのではないか」  
→経済規模を拡大しながら、二酸化炭素排出を削減することの困難さ（矛盾）

# これがすべてを変える

- そもそも経済成長は、人間が豊かになるはずのためではなかったか。
- 盲目的に経済成長を求めるだけであれば、長期的には「豊かな」生活そのものを不可能に。
- 2. 0°Cの上昇でさえ、熱波や洪水のリスクが飛躍的に増大し、農業は甚大なダメージを受ける。サンゴが99%減少し、漁業にも大きな影響がでる。世界的に壊滅的な被害が出ることで、私たちの食生活、環境、文化は大きく変わってしまう。
- 今、私たちが「普通」と思っている生活さえも、成り立たない。
- 2050年までに実質ゼロを実現することが非現実的な理想論のように聞こえる一方で、現在のような対策を取り続けることで、豊かな生活が続くと思う方が、むしろ非現実的。

# 大転換の時

- 無限の経済成長があらゆる人々の生活を豊かにするという新自由主義のトリクル・ダウンの神話を信じ続けた結果、この30年、気候変動対策に仕えた貴重な時間を無駄に
- 本来であれば、この間にもっと段階的な移行を実現することができただろう。そのような時代は過去のものに。
- グレタ「あなたたちが科学に耳を傾けないのは、これまでの暮らし方を続けられる解決策しか興味がないからです。そんな答えはもうありません。まだ間に合うときに行動しなかったから。」
- 社会システムの大転換の必要性  
→有限な惑星で無限の経済成長を目指す資本主義からの決別の必要性

# 気候正義

- 残された時間はわずかであり、できる限りのあらゆる手段を使わないと、取り返しのつかない事態になる
- リベラルの枠組みでは対処できない = 右派ポピュリズムが危機を利用して
- 将来の世代は、自分たちの排出していない二酸化炭素の影響によって、生活が脅かされることになる。
- グレタ「この危機を引き起こした原因にもっとも加担していない人々が、最も影響を受けることになる世界」
- 実際今、二酸化炭素の半分を排出しているトップ10%にカウントされる先進国の富裕層は、その完全に否定的な帰結に直面することなくこの世を去る。
- ところが、みずからは二酸化炭素をほとんど排出していない下から数えて半分の人々は、より大きな影響を受け、その影響は干ばつ、洪水、山火事などの様々な形で表れ始めている。

# 惨事便乗型資本主義と階級闘争の復権

- 干ばつ、洪水、山火事に新しいビジネスチャンスを見出す  
→ 遺伝子組み換え、淡水ビジネス、保険
- 気候変動がもたらす災害に対して責任を負っている富裕層ほど、その否定的帰結から逃れるための技術や資本を有している
- 責任がないその他大勢の人ほどその被害に晒されやすい。
- 気候正義の問題は、再びマルクスの「階級闘争」の問題としてとらえ返されなくてはならない。  
= 環境プロレタリアート
- 資本主義との対峙なしには、気候危機への対処は不可能  
(気候危機との対峙なしの資本主義批判もありえない = 日本の反緊縮)

# 新自由主義からの決別とエコ社会主義

- 気候正義に基づいた構造転換は、単なる気候変動対策にとどまらず、それが同時に、新自由主義資本主義のありかたそのものを大きく変容する要求を含む。
- **生産の計画化・市場規制** → こういったものを、どれだけの量作ってよいのかをカーボンバジェットを考慮しながら、市場に任せるのではなく、管理・調整
- **地域雇用の創出** → この間に推し進められてきた自由貿易にも大幅な規制を行い、よりローカルな規模での生産や消費を重視する必要
- **格差是正** → 独占資本や富裕層への課税を気候正義の一環として新たに課し、気候変動対策に用いる必要
- **採取主義からの脱却** → 自然からの掠奪に基づいた近代的な人間と自然の物質代謝のあり方を反省し、修繕しなくてはならない（コモンとしての地球）

# 移行に向けて：グリーンニューディール

- 「永遠の経済成長」という物語が、現実には人々の生活を貧しくし、環境を破壊するのであれば、その不合理性はより批判されるべきである
- サンダース、AOC、コービン、Diem25がかかげるGND
- ポール・メイソンが評価するように、「経済の脱炭素化を、再分配やインフラ構築としっかり結びつけたGNDの提案は、今世紀の政治のなかでも、ひととき目立つ金字塔で、経済を再び人間的なものにする大胆な計画」である（メイソン『未来への大分岐』）

# サンダースのGND

- ① 二〇三〇年までに発電と交通機関を一〇〇%再生可能エネルギーにし、遅くとも二〇五〇年までに完全な脱炭素社会を実現すること
  - ② 一六・三兆ドル規模の大型公共投資と新雇用の創出
  - ③ 気候変動に関する緊急事態の宣言
  - ④ 海洋採掘、フラッキングなどの禁止
- 労働時間を短縮し、雇用を保障し、無償の交通機関、電力会社の公営化、国民保険、エネルギー効率性の高い公共住宅。
  - 農地改革 + 労働者協同組合

# 左派ポピュリズムとしてのGND

- GNDが真の左派ポピュリズムになるためには、単に脱炭素社会を実現することだけにエネルギーを注ぐのではなく、階級、人種、ジェンダーといった問題を含めた包括的で、より積極的なビジョンになる必要がある。
- GNDが目指す抜本的な規制は資本主義そのものの論理と衝突せざるを得ない。
- 労働運動や環境NGO、地域コミュニティ、先住民族などの広範な社会運動による下支えなしには、資本の抵抗の前に失敗に終わるのであり、できるだけ多くの人々を巻き込む積極的ビジョンを打ち出す普遍的なプロジェクトでなくてはならない。
- 単なる福祉国家ではなく、生産関係そのものを変革するプロジェクト = 21世紀の社会主義（日本の反緊縮とは違う）

# ラディカルな改良主義としてのGND

- エコ社会主義への移行手段としてのGND
- 既存社会システムの原理を変えるような形での改良であり、資本主義の経済成長だけを追い求める原理そのものを抑制しなくてはならない。
- そのようなラディカルさなしには、GNDも、「トーマス・フリードマンらの掲げるような単なる「グリーン革命」のための、「気候ケインズ主義」で終わる

→環境帝国主義の危険性

- 資本の論理と対峙しない気候ケインズ主義は、アメリカのグリーン化のために地球上の限りある資源を採掘することになり、最終的に地球の限界と相容れない結果となる。
- ナオミ・クライン的「GNDの生み出す良質のグリーンな仕事のも賃金最終的だが、ただちにを排出は、クルミを、排のイ」  
オメや掘採以外の消費を抑制するに過ぎない。GNDの生み出す良質のグリーンな仕事のも賃金最終的だが、ただちにを排出は、クルミを、排のイ